# 話し言葉と書き言葉

## 話し言葉

音声によって伝えられる言葉を**話し言葉**という。話し言葉は目の前の相手に対して使われることが多く、その場の状況を共有していることを前提にした伝え方ができる。

・その場にあるものや様子を指示する語句が使える。
　「それ、持って帰ってね。」

・状況に応じて言葉を省略できる。
　（バスを待っていて）「あ、（バスが）来たよ。」

また、話し方によって内容を強調したり、念押しや確認をしたりすることができる。

・大事な部分を話し方によって強調できる。
言葉を繰り返す。
　（集合時間を念押しして）「九時よ。九時。」
大事な部分を大きな声で発音する。重要な部分をゆっくり話す。
　「ここに九時に来てください。」

・念押しや確認の言葉を使って相手の反応や理解を確かめられる。
　「……ですね。」

このほか、くだけた表現や、方言が用いられることがあるのも話し言葉の特徴である。話し言葉では、同音異義語などの区別がつきづらいので、読み方を変えることもある。
（例）「シリツ（市立・私立）」→「イチリツ」・「ワタクシリツ」

## 書き言葉

文字によって伝えられる言葉を**書き言葉**という。その場限りで消えてしまう話し言葉と違い、書き言葉は記録として情報を残すことができる。

・内容を書き直したり、読み返したりすることができる。

書き言葉は、誰が、どのような状況で読むかわからないので、正確に情報が伝わるように書く必要がある。

・情報は具体的に書く。
　×次の日曜日　→　6月27日(日)

・表記や文末を整える。
漢字・ひらがな・カタカナを使い分ける。
常体（だ・である）、敬体（です・ます）のどちらかに統一する。

語句の中には、話し言葉ではよく使われても、書き言葉ではあまり用いられないものもあるので注意する。
（例）なので（話し言葉）→　そのため・このため
　　　でも（話し言葉）　→　だが・しかし

確認テスト

(1) 次の中から、話し言葉の特徴として適当でないものを選びなさい。

ア その場にあるものを指し示す語句を使うことができる。
イ 内容を、必要に応じて何度も読み返すことができる。
ウ 言葉を発する状況によっては、内容を省略できる。
エ 音声を調整して、重要な情報を強調することができる。

[　　]

(2) 次の中から、書き言葉の特徴として適当でないものを選びなさい。

ア 同じ発音の言葉も、漢字で書くことで区別することができる。
イ その場にいない人にも、文字で情報を伝えることができる。
ウ 誰が読んでも誤解が生じないように、共通語を使うことが多い。
エ その場で相手が内容を理解しているか確認することができる。

[　　]

(3) 次の話し言葉の内容について、気を付けて話すべきこととして適当でないものを選びなさい。

(調理実習の前日、持ち物を連絡(れんらく)していて)
「それではみなさん、明日は調理実習なのでエプロンと三角巾(きん)を忘れずに持ってきてください。」

ア 持ち物であるエプロンと三角巾は、大きな声やゆっくりした声で話すなど、強調する。
イ 相手がいつ内容を確認するかわからないので、明日と言わずに具体的な日付を伝えなければならない。
ウ 聞き手が内容を理解できているか確認するために、問いかけたり、念を押す言葉を使ったりするとよい。

[　　]